

ギリシア語 B (2)

12 動詞的形容詞・間接話法・否定詞（第62課～第64課）

13 μ ἰ 動詞（第65課～第67課）

14 μ ἰ 動詞第68課～第70課）

定期試験

15 フィードバック（定期試験の解答解説・成績の個別告知）

毎回、各課の練習問題のギリシア語和訳をしてくること。

ギリシア語の発音は、講師の発音をしっかりと聞き取りつつ、各自で何度か練習しておくこと。ギリシア語も語学なので声に出して読めるようにしなければならない。

教科書『ギリシア語入門』は、十分な情報量を備えるが、レイアウト面で見づらい点がある。それを補うものとして、授業では解説の為の資料と、教科書とはまた別の観点からの動詞の変化表を配布する。

【履修要件】

前期開講のギリシア語Aから引き続き受講するのが望ましい（必ずギリシア語Aを受講していなければならないということではない）。

後期のギリシア語Bから初めて参加する場合は、ギリシア語Aの内容（第33課まで）を独習しておくこと。

【成績評価の方法・観点】

毎回提出してもらう小課題と定期試験の合計点で評価する。

小課題の点数は定期試験での失点を補うものとして機能する。

【教科書】

田中美知太郎・松平千秋『ギリシア語入門 新装版』（岩波書店、2012年）ISBN:978-4000225892（1962年初版の『ギリシア語入門 改訂版』と内容・レイアウトは同一なので、そちらを用いてもよい）

【参考書等】

（参考書）

マルティン・チエシュコ（著）・平山晃司（訳）『古典ギリシア語文典』（白水社、2016年）ISBN:978-4560086964

堀川宏『しっかり学ぶ初級古典ギリシャ語』（ベレ出版、2021年）ISBN:978-4-86064-643-1

ギリシア語の辞書については、古川晴風『ギリシャ語辞典』大学書林（<http://www.daigakusyoin.co.jp/book/b11837.html>）の利用を強く薦めたい。日本語ネイティブ話者がギリシア語を学習するに際しては、この辞書を利用できるなら利用したほうが圧倒的に理解の助けとなる。しかしこの辞書は非常に高価なので購入するのはためらわれるだろう。さしあたって、大学図書館や所属研究室に置かれているものをその場で使うことになると思われる（研究室に未所属でも、その研究室に置かれている辞書を使えることもある）。しかし、もしギリシア語学習とギリシア語文献の読解を人生の伴とする可能性を考えるなら、ぜひ買って手許に置いて使ってもらいたい辞書である。

また下記のPerseus Digital Library上にある無料で参照できるギリシア語-英語辞書も活用してもらいたい。

（関連URL）

<https://www.perseus.tufts.edu/hopper/morph>(Perseus Digital LibraryのGreek Word Study Tool。変化形から、その見出し語の形と文法的情報が分かり、さらにギリシア語-英語辞書の項目説明も参照する

ギリシア語 B (3)へ続く ↓ ↓ ↓

ギリシア語 B (3)

ことができる。)

[授業外学修（予習・復習）等]

受講生は毎回、習った課の練習問題のギリシア語文を和訳をしていくこと。
この際、ギリシア語文の個々の単語の文法的情報、すなわち名詞・形容詞ならば性・数・格、動詞ならば法・時称・態・人称/数を、必ず分かるようにしておくこと。
この文法的情報のメモがし易いように、練習問題の各文の行間を大幅にとったワークノート形式の資料を別途配布する（自分でノートにギリシア語本文を書き写してもよい）。

[その他（オフィスアワー等）]

このギリシア語A・ギリシア語Bは、人文・社会科学系科目群であるが、外国語科目群と同様に語学学習への強い目的意識をもって臨むことが肝要である。予習・復習には大幅に時間を使うことになるが、それこそがギリシア語を学ぶことの醍醐味である。

ギリシア語Bまで受講し終え文法を一通り学んだ後は、文学部の西洋古典学専修や西洋哲学史専修の古代哲学史の講読・演習に参加すると、なお一層ギリシア語とギリシア文学の魅力を味わうことができるだろう。